

## 前年度の改善策取り組み結果及び次年度改善策の方針

## (1) 学習について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目                    | 結果  |
|-----|-------------------------|-----|
| 児童  | 授業の内容はよくわかる             | 90% |
| 児童  | 授業は楽しい                  | 78% |
| 保護者 | 子供たちにとって分かりやすい授業が行われている | 80% |

## 1 分析と提言

児童の「授業の内容はよくわかる」の項目、保護者の「本校では子どもたちにとって分かりやすい授業をしている」のいずれにおいても、肯定的な回答が昨年度と同等であった。一方、「授業は楽しい」の項目は7%減となった。高学年になり授業内容を理解させようと課題を多く与えたり、知識の定着を図らせたりする授業が多くなっていたとも考えられる。

## 2 改善策

さらなる校内研究や日々の授業研究を通して視聴覚に訴える教材・教具を工夫し、さらに多くの児童が主体的に活動する意欲をもてるような授業改善を行う。また、学年で意見を交わしあいながら教材研究を深め、授業展開の幅を広めていくとともに、計算力アップテスト等で基礎基本の理解を促し、分かる喜びを実感させるなど、効果的な学習活動の工夫をしていく。

## 3 前年度改善策の取り組み結果

昨年度までの校内研究「国語科」に代わり、今年度は「特別活動」の研究を通して子供たち一人ひとりに自己肯定感や所属感をもたせようとして取り組んできた。より子供たちにあった教材研究が必要であった。

## (2) 生活指導について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目               | 結果  |
|-----|--------------------|-----|
| 児童  | わたしは、決まりを守って行動している | 75% |
| 保護者 | 子供たちに問題となる行動が少ない   | 57% |

## 1 分析と提言

児童の「わたしは、決まりを守って行動している」の肯定的な回答が75%と一昨年より8%減った。教師の指導について納得でききまりを守ろうとしている児童もいる中、自分の行動について振り返りができた児童がいたとも考えられる。保護者については「子供たちに問題となる行動が少ない」の項目で、肯定的な回答は若干減少は見られたので子供たちの規範意識がまだまだ育っていないと考えられる。

## 2 改善策

特別の教科「道徳」や日常の生活において、実践を通して善悪の判断を身に付けさせていきたい。また、昨年に続き、挨拶や言葉遣いを改善させる具体的な指導や活動を行い、喜多見の学び舎の合言葉『いいあせかこう』の取り組みについて十分な説明をして周知する。「あいさつをきちんと」について、美しい日本語週間や中学校と連携を取った挨拶運動、異学年交流活動等を通して実践していく。あいさつジャンケン（先にした方が勝ち）や全学年が取り組むあいさつ運動を行い、実践の場を増やしていく。

## 3 前年度改善策の取り組み結果

特別の教科「道徳」や日常の生活において、実践を通して善悪の判断を身に付けさせてきている。今後数年かけて学校全体に規範意識を育てていく。

## (3) 学校行事について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目                        | 結果  |
|-----|-----------------------------|-----|
| 児童  | 行事では、みんなが活躍するチャンスがある        | 82% |
| 児童  | 先生はわたしたちのやる気を大切にしたい指導をしている  | 78% |
| 保護者 | 子供たちが活躍する場面がたくさんあり内容が充実している | 90% |

## 1 分析と提言

児童、保護者ともに「活躍する場所がある」の質問に対して、児童は82%、90%近くの保護者が肯定的な意見であり、昨年度よりも増加している。さらに、児童への質問である「先生はわたしたちのやる気を大切にしたい指導してくれる」に対しても80%近くと肯定的な傾向が見られた。昨年度から、1年生から6年生の小集団で構成したたてわり班活動「なかよしタイム」を実施したことで高学年としての活躍の場が増えたことも理由として考えられる。

今後も、児童が主体的に取り組むことのできる行事への取り組みを行、児童会活動を活かし、計画や実践に時間の余裕を取り、児童の意見を取り入れて達成感を味わわせるようにする。

## 2 改善策

今後も、児童が主体的に取り組むことのできる行事への取り組みを行っていく。児童会活動を活かし、児童の発想や主体性を取り入れた学芸会や運動会などの取り組みを考えていく。計画や実践に時間の余裕を取り、児童の意見を取り入れて達成感を味わわせるようにする。

## 3 前年度改善策の取り組み結果

行事などにおいて児童が主体的に取り組むような教育活動を実践したので良好な結果となった。

## (4) 学校運営について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目               | 結果  |
|-----|--------------------|-----|
| 保護者 | 学校の重点目標が明確である。     | 60% |
| 保護者 | 校長はリーダーシップを発揮している。 | 49% |

## 1 分析と提言

学校の重点目標や、校長のリーダーシップについての項目では保護者ともに「とてもそう思う」の意見が昨年・一昨年度に比べ減少している。管理職の異動も少なからず関係していると考えられる。また、「分からない」という回答が

1 0%台と変化がなく、昨年同様に周知することが課題である。

2 改善策

今後も、年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信していく。特に、保護者会の出席を促して多数の方に来ていただけるよう、工夫していく。学校便り、学年便りで、分かりやすい表現や興味をひく記述をし、継続的に周知をしていく。

3 前年度改善策の取り組み結果

年度始めの学校便りや保護者会にて説明の機会を設け、情報を発信した。学校便り、学年便りで、分かりやすい表現や興味をひく記述をし周知をしたがまだ周知徹底まではいかなかった。

(5) 教職員について 顕著な結果(%は「とても思う」と「思う」の割合)

| 評価者 | 評価項目                     | 結果  |
|-----|--------------------------|-----|
| 児童  | 先生は、いつも熱心に教えている。         | 84% |
| 児童  | 先生は、よくわたしの話を聞いてくれる。      | 71% |
| 保護者 | 本校の教職員は、教育活動に熱心に取り組んでいる。 | 78% |

1 分析と提言

児童については、どの項目もわずかな減少がみられる。特に「先生は、よくわたしの話を聞いてくれる」が7%を超える減少となった。今年度から15分間のモジュールが組み込まれ、下校時刻が遅くなり放課後の時間が短くなってしまったことも一因として考えられる。

2 改善策

結会議の精選をして下校後の時間を少しでも取れるよう努力する。また、今後も、親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を取るなど、児童や保護者からの信頼を得る努力をしていく。

3 前年度改善策の取り組み結果

親身になって児童の話を聞き、保護者への連絡や相談を密に行って連携を取るなど、児童や保護者からの信頼を得る努力をしてきた。ただ、子供たちの要望に十分には応えられなかったと考えられる。

(6) 広報活動・情報提供について 顕著な結果(%は「とても思う」と「思う」の割合)

| 評価者 | 評価項目                       | 結果  |
|-----|----------------------------|-----|
| 保護者 | 学校公開や保護者会を通して、学校の様子がよく分かる  | 85% |
| 保護者 | 本校のホームページは、わかりやすい内容になっている。 | 62% |

1 分析と提言

保護者について、「学校公開や保護者会をととして、学校の様子がよくわかる」は昨年度とほぼ変わらない。今後も学校の教育活動についてより分かりやすく発信する機会を増やすことが必要である。ホームページについても、昨年と横ばい傾向にあるが、「分からない」という回答が20%近くを占めている。HPを実際に見ない家庭もあるのではないかと考えられる。

2 改善策

ホームページの更新回数を増やす努力はしてきているが、さらに興味をもって見ていただく手段を工夫することが課題である。学校便りや学年便り等で内容について周知していく。更新内容に関係する児童たちにホームページに掲載されていることを伝え広めていく。

学校便りや学年便りの内容の充実にも努め、学校の様子について伝えていく。

3 前年度改善策の取り組み結果

その日のうちに各種行事、各学年の教育活動の様子をホームページにあげる努力をした。

(7) 地域との連携について 顕著な結果(%は「とても思う」と「思う」の割合)

| 評価者 | 評価項目                        | 結果  |
|-----|-----------------------------|-----|
| 保護者 | 地域の人材や施設を教育活動に生かしている        | 76% |
| 保護者 | 「学び舎」の活動について、十分な情報が提供がされている | 52% |
| 保護者 | 地域の活動や行事に協力的である             | 84% |

1 分析と提言

「学び舎」の活動について、保護者の肯定的な回答は昨年度と比べて横ばいである。児童の「学び舎」の区内中学校との交流や小中学校合同での授業研究や挨拶運動、育てた野菜の交換、展覧会での作品展示等の活動は行われているが、高学年児童の交流が主であり、広く保護者全体への周知は難しいところがある。また、地域行事の活動に関しては、各地域のお祭りに教員が顔をだしたり、喜多見地区区民祭りで教職員がお店を出したりして地域との交流は活発な方である。今後も協力していきたい。

2 改善策

学び舎での活動をより積極的に周知していけるよう、学校便りの配布等で学び舎としてお互いの様子を伝えていく。

3 前年度改善策の取り組み結果

学び舎の教育活動の様子をホームページにあげる努力をした。

(8) 学校の安全性について 顕著な結果(%は「とても思う」と「思う」の割合)

| 評価者 | 評価項目                          | 結果  |
|-----|-------------------------------|-----|
| 保護者 | 本校の施設の安全性は確保されている。            | 60% |
| 保護者 | 本校では、校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている | 87% |

1 分析と提言

「本校の施設の安全性は確保されている」の項目が13%減少した。古い建物ではあるが毎月の安全点検で修理・補修しているので教育活動に支障が起きないようにしていることは理解されていると思うが、やはり施設設備の老朽化は安全性や衛生面で不信感をもたれたのではないかと考えられる。「校内の環境や給食等への衛生面の配慮がなされている」についての肯定的意見は、昨年度に引き続いて87%であった。給食試食会での調理の衛生管理についての説明、給食便りの内容の充実、校内美化等の取り組みが評価されたものと考えられる。

2 改善策

今後も、災害や不審者等の対策について情報を発信し、保護者が安心して児童を学校へ送り出すことができるよう、万全の対策を取っていく。また、引き続き施設の改善を教育委員会に要望していく。環境や衛生面の配慮においても、継続して取り組んでいくようにする。

3 前年度改善策の取り組み結果

災害や不審者等の対策について情報の発信、教室の不要設備の撤去など環境や衛生面の配慮に取り組んだ。

(9) 学校生活全般について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目                    | 結果  |
|-----|-------------------------|-----|
| 保護者 | 本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている | 87％ |
| 児童  | 毎日の学校生活が楽しい             | 81％ |

1 分析と提言

児童について「毎日の学校生活が楽しい」は肯定的な回答が若干減少した。保護者についても、「本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている」の項目は昨年とほぼ同じである。この8割の肯定的結果に安心するのではなく、2割の児童が楽しいと思っていないことを重く受け止めていく必要がある。

2 改善策

2割の児童が「学校生活が楽しい」と感じられないことがあるという結果を思う重く受け止め、保護者や児童の声に耳を傾けながら、より充実した学校生活の実現を目指していく。日頃から学級活動を充実させ、行事等で児童の意見が反映されるような取り組みを行っていく。教員、スクールカウンセラーと連携し児童一人一人の声を聞き取る体制をより充実させていく。

3 前年度改善策の取り組み結果

校内研究「特別活動」を通して昨年度以上に学級活動を充実させ、行事等で児童の意見が反映されるような取り組みを行った。教員、スクールカウンセラーと連携し児童一人一人の声を聞き取る点では十分とは言えなかった。

(10) 独自項目について 顕著な結果（％は「とても思う」と「思う」の割合）

| 評価者 | 評価項目                         | 結果  |
|-----|------------------------------|-----|
| 保護者 | 子どもたちは、あいさつをよくする             | 52％ |
| 地域  | 子どもは、あいさつをよくする               | 77％ |
| 児童  | わたしは、毎日あいさつをよくする             | 73％ |
| 保護者 | 子どもの言葉遣いがよい                  | 40％ |
| 地域  | 子どもの言葉遣いがよい                  | 57％ |
| 児童  | よい言葉づかいをしている（目上の人に対する言葉遣いなど） | 63％ |

1 分析と提言

保護者では、「子どもたちは、あいさつをよくする」「子どもの言葉遣いがよい」についての肯定的な回答が5割やそれを下回る結果である。昨年に引き続き具体的な取り組みが課題となっている。保護者・児童とも言葉遣いに対する実践力に課題意識をもっていることが分かる。

2 改善策

年度初めや各学年の保護者会で家庭にも呼びかけ、学校や家庭における挨拶や言葉遣いの指導の浸透を習慣づけていく。生活目標に挨拶を掲げたり、朝の挨拶運動を引き続き行ったりするなど、具体的な取り組みを継続して児童の意識を高める。言葉遣いについても、相応しくない言葉遣いは云い直しをさせる指導を行い、家庭とも連携して日常的に言葉遣いを意識させるとともに、美しい日本語週間などを活用してきれいな日本語を使えるように指導していく。

3 前年度改善策の取り組み結果

学び舎の中学校、保護者と朝の挨拶運動を行い、具体的な取り組みを継続して児童の意識を高める取り組みをした。言葉遣いについても、相応しくない言葉遣いは云い直しをさせる指導を行い、家庭とも連携して日常的に言葉遣いを意識させるとともに、美しい日本語週間などを活用してきれいな日本語を使えるように指導した。